

第3回 鶴川東地区新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2023年12月20日（水） 13:30～14:46	
開催場所	町田市立鶴川第二小学校 ランチルーム（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	渡邊委員、中村委員、豊田委員、岩永委員、嶋田委員、大川委員、吉川委員、陶山委員、市川委員、○鈴木委員、内野委員、◎鮎坂委員 （◎：会長、○：副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、児童青少年課
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

1 第2回推進協議会の振り返り

新たな学校推進課 （資料1説明）。

2 報告事項

（1）鶴川東地区統合新設小学校の校舎建設について

施設課 （資料2-1、2-1別紙1説明）

委員 仮校舎の運営中に学童が合併すると思うが、人数的に大丈夫なのか。

児童青少年課 鶴川地区以外でも、統合の際にどのぐらいの児童が入会を希望するか推計しており、施設課とも調整している。1人当たり1.65平方メートル以上の基準となるスペースは確保できるようにしていく。

委員 工事中のダンプやトラック、業者の出入り、待機車両の場所、通学時間帯の工事車両の行き来など、保護者から危険がないのかという意見があるが、考慮してもらえるのか。

施設課 通学時間の調整や、出入口に交通誘導員を配置する等、安全には十分注意して進めていきたい。

委員 ほかの工事をしていたときも、必ず正門のところには交通誘導員がついており、大型車両が出入りする際には立会いをしてくれていた。今回もそのようにお願いしたい。

仮校舎建設中に車両をどこに置くのかと、児童が2つに分かれて登校する赤い動線があるが、右側の線は今現在ないルートだが、どのようにするのか。

施設課 記載してあるルートについては現在検討を重ねている。仮校舎の配置によって動線計画も変わる。しかし、基本的には、南側の現在の車両動線を使いながら、仮校舎を建設すると思う。児童動線と工事エリアは明確に分けた上で、安全を確保しながら進めていく。

大型車両については、車両入り口が現在南側にあり、入って西側の辺りに空いているスペースがあるため、そこをバリケード等の仮囲いを設けた上で、工事を進め

ていきたい。詳細については、仮校舎の設計で検討を進めていきたい。

委員 赤い動線はまだ検討中ということか。この動線だと、体育館の上を通ることになる。

委員 仮校舎と体育館を離して配置すると、雨が降った際に傘を差して移動することになり、体育館の利用が不便になる。体育館へのアクセスを工夫して仮校舎を建ててほしい。

施設課 設計者と打合せを重ねているが、仮校舎から既存体育館へのアクセスは基本的に屋根がついた渡り廊下を設置し、雨の日も通行できるように考えている。

委員 解体中など、工事の音への対策は万全にするようにできているのか。
共通ポイントの防災拠点機能の完備について、プールが4階にあるが、プールの水を利用することがあると思うが、取水のルートは考えているのか。

施設課 解体中や工事の音や振動への対策については、これだけ大きな建物ではどうしても音や振動は出てしまうが、なるべく音や振動が少ない重機を選定することを考えている。具体的には、工事業者と調整しながら、なるべく近隣の方に影響が少ないように進めていく。

プールの水については、既存のプールは通常、水を張り、例えば近くで火事があった場合に消防車はそのプールの水を消防水利として活用している。新しく建てられた校舎については、プールは上階を想定しており、同じような形、または場合によってはタンクを設け、ためた水を使うなど消防水利に活用できるよう検討している。

委員 プールは室内ではなく屋外で4階を予定か。ほかの小学校でプールが屋上にあり、地上よりも日差しが強く、水温が高くてプールに入れないことがあると聞いた。それに対する対策はできているのか。

施設課 現時点では、屋内のプールを予定している。屋根があるタイプを検討しているので外気を利用しながら室内や水温の調整などを検討している。

(2) 新たな学校づくりに伴う学童保育クラブ及びまちともについて

児童青少年課 (資料2-2、3説明)

委員 まちともは放課後に子どもたちを預かって遊ばせてくれるという考え方だと思うが、低学年と高学年で放課後の時間帯は異なる。1年生は4時間で終わり、高学年は6時間までということも多々ある。特別教室のタイムシェアは、放課後、英語教室などほかの事業でも行っている。そのため、どこの教室も空いていない、という事態が起きることが考えられる。また、まちともは遊び道具がたくさんあり、ボードゲームやカードゲーム、座卓や畳まである。もし可能であれば、部屋を一つ用意するという方向性でまちともの方針を再考してもらえると現場としてはありがたい。

児童青少年課 このような意見は、ほかの学校でも同様の意見が出ている。低学年と高学年で下校の時間が異なるため、放課後に使えるスペースが日によって違うということは認識している。学校の教育活動に支障がないよう、そのうえで、子どもたちの放課後の居場所も確保していく考えである。具体的なルール決めは、引き続き学校ごとに話

しをしていく。

専用のスペースについては、新しい学校はいろいろな機能を複合化するため、限られたスペースをうまく活用していく必要があると考えている。それぞれの活動に支障がないよう、その考えを前提に、タイムシェアを引き続き学校や協議会と相談しながらやっていきたいと考えているため、ご協力をお願いしたい。ほかの学校では、低学年しか使わない特別教室、例えば、第2音楽室や第2理科室などを放課後に提供してもらう事例もある。日によって活動場所が変わるのか、荷物を置く場所だけ借りるのかというのを、ほかの学校の情報も踏まえて相談をしたい。年明けには学校への相談に伺う予定でいる。

委員

学童保育クラブの高学年の受入れが始まってしばらく経つが、どれぐらいのニーズがあり、今後続けていくメリットがあるのかというのが見えてきていると思う。同時に障がいのある児童の受入れもしているかと思うが、スペースは実際に確保できているのか。

指導員、支援員の数も少なく、確保に困っている状況で、障がいのある児童と言っても障がいの枠が広く、支援員2人、3人がかりで保育するケースもあると思う。学童に対する負担ばかりが増えることが考えられるため、障がいのある児童に関しては、民間ではなく町田市のほうで別の何かを考えてもらうなど、システム的に再考して欲しい。

児童青少年課

高学年の受入れについては、保護者からの、入会できるようになって良かった、という声をいただいている。現状としては、2021年度の受入れ開始以降、想定よりニーズが高く、近隣市と比べても町田市は多いような状況であるため、受入れ体制をどう確保していくかが課題。高学年の保護者からは、自宅に1人で留守番をさせるのが不安という声もあることから、高学年を受け入れるのは、方向性として合っていたと思う。

障がいのある児童については、最近、放課後デイサービスなどが充実しており、そういったところに行く子どもも増えている。一方で、放課後も学校の中で子どもが過ごせる環境を希望する保護者もいる。市としては、子どもたちに、どの子ども同じ仲間だと思えるよう、事業者の協力を得ながら受け入れていきたいと考えている。支援員については、学童に限らず保育現場の支援員の確保が難しいというのは私たちも課題だと認識しており、今後を見据えて考えていく必要があると思っている。

委員

まちともは、工事期間中も実施するのか。

児童青少年課

基本的には、登校日であれば開催を予定している。活動場所については、今後、施設課の工事のスケジュールと併せて調整をしていく。

委員

夕方の学童のお迎えの際、暗い場合もあり、近隣には迷惑かもしれないが、学童近くの道路に車を停めてしまうことがある。鶴川第三小の場合、校舎の裏に駐車スペースが確保されているが、学童に近いところということで、鶴川第三小の南側の道路に停めてしまうことがある。駐車スペースの整備を検討中というが、子どもたちを送迎しやすい場所に駐車スペースをつくってもらいたい。

施設課 学童の駐車スペースは、学童の占有ではなく、来校者の方の駐車スペースを活用することも含めて今後検討していきたいと考えている。

委員 駐車スペースが学童と離れていたり、遠かったりすると、結局、夕方の忙しい時間に少しでも早くお迎えに行きたいという気持ちもあり、道路沿いや学童の近くに停めてしまう気がする。一応駄目と言っている、そういう車は出てくると思う。路上駐車は子どもたちにとっても危険があるため、危険を少しでも遠ざけられたらいいと思う。

児童青少年課 設計にはほかにも学校として優先しなければならない点があると思われるため、要望通りにはいかないかもしれないが、現在の学童の実態を踏まえて、保護者の方に使ってもらえるような考えで進めていくことが大事だと思っている。

委員 昨日のまちともは子どもが1つの教室に50名いた。子どもたちから外に出たいと言って、30分ぐらいですぐに外へ出した。しかし、雨が降ると外には出られないため、難しいとは思いますが、部屋を一つ確保し、もう一つ予備の部屋を用意してもらいたい。また、侵入者が来たときに、早く避難できる場所にまちともや学童の部屋をつくってほしい。

鶴川第三小が統合すると、まちともに参加する子どもが増えると思う。今50名のところが100名になるかもしれない。そういうところも考えていただきたい。

(3) 荷物らくらく登校の試行報告について

新たな学校推進課 (資料2-3説明)

委員 クロームブックを持って帰っていないことが疑問。逆にクロームブックだけ持って帰ったらいいのではないかと思った。体操着や上履きは週末にまとめて帰る必要性はないと思っている。最近子どもたちの発育もよく、ジャージを最初からつくる方向で考えて、体操着をもう2着セットぐらい最初に購入して、必ず週末に持ち帰るという感覚をやめたらいいと思う。上履きもそれほど高価なものではなく、2足から3足持てるなら、持ってくるのは月曜日で構わないので、持ち帰るのは別に週末でなくてもいい。そういった柔軟な考え方はできないか。

新たな学校推進課 クロームブックについては、事前アンケートの中で、カバンの中で一番重いものとしてクロームブックが上がっていたため、こちらを持ち帰らずとも授業等に支障がないかという実験をした。今回はあくまで実験として取り組んだ事業であり、町田市として、指導面ではクロームブックを活用するという考えがあり、クロームブックを使ったり、持ち帰ったりということをしている。しかし、今までよかれと思ってやっていたこと自体も見直したほうがいい可能性があり、極端な話、手ぶらで登校した場合、学校生活にどういった影響があるのかなというのを調べたいと思った。クロームブックをなくしたときに、例えば、宿題の出し方や、家と学校でクロームブックを2台持てばいいというような話もあった。

上履きに関しても、持って帰らないのはあり得ないという意見もあれば、1週間、2週間ぐらい良いのではないかという意見もあった。絵の具や習字を定期的に持ち

帰ること自体も見直せないか、場合によっては、ある程度共用のものを市で購入するというのも、方法としてあると考えている。

ランドセルで登校することについて、子どもたちからはランドセルでなくてもいいとの答えも多かった。保護者からは、重いものを持ったときに、リュックが後ろに引っ張られてしまう感じを不安に思ったり、地域の方からは、ランドセルを持っていないと下校中なのか、遊びに行っているのか分からず、見守りの対象として分かりにくく声をかけづらいという意見も多かった。

これはあくまで実験であり、いくつかの学校と相談しながら、新しい学校に向けて、登校時の荷物を見直していきたいと思っている。

(4) その他報告事項について

新たな学校推進課 (資料2-4、資料2-5説明)

3 検討事項

(1) 統合対象校の歴史の継承について

新たな学校推進課 (資料3-1説明)

委員 鶴川第二小は、60周年記念式典をどうするのか、内々の委員会で検討をしている。卒業生や在校生が来校できるフリーなオープンスクールを夏休みにできたらいいという話をしている。いろいろな人にこの日は鶴川第二小が開かれているので来てねというお願いをして、例えばその場で、学校に常設されている卒業作品について、どうするのかという意見をもらえるような機会ができればいいと思う。同時に、ずっと貯めてきたPTAの会費、残金を次の学校に引き継ぐのか、有効に使うのかも考えている。

60周年でも、日常においてボランティアコーディネーターの方などがカメラやビデオで撮りためてくれているものがあり、それと合わせて新たに撮影するという話もある。行政主導で検討してくれているものとの棲み分けや、一緒にしてもいいものなど、足並みをそろえていきたい。決まったことについての情報を随時もらって、60周年の委員会にも、行政でこんな計画と予算立てがされていると知らせながら、組み合わせて進めていければと思っている。

来年の8月25日の日曜日と26日の月曜日にオープンする。場合によっては、卒業制作についての意見を聞きたいと事前に告知もしたいと思っている。

会長

〈閉会のあいさつ〉